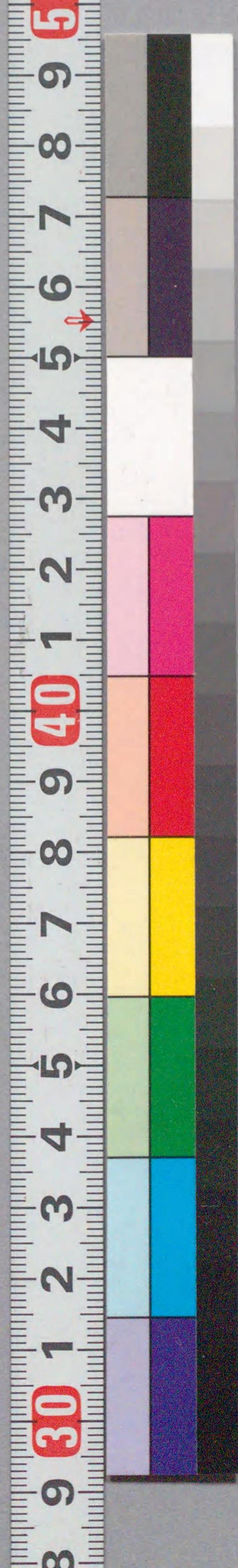


六代目團十郎
追善稗史
東発名臯月落際
曲亭馬琴

207
724



国立国会図書館 東発名臯月落際：2巻 207-724

ガラス使用

市川の流氷の絶たずて春も花の氷よの
 花は戸の花の合より白ひ四方ふ薫りて其
 兄を梅の実の入る五月雨のひそめあり
 の花は梅の枝のたてたの風の吹りて
 と啼く白猿が悲しき見負百万人の涙
 下名とのひ枝といひ梨雪の子
 人の若小出人情ても情ひさか三拜ありよ
 戯作せよと何の宿舎か
 魂を交して子の命も長
 中合る事



寛政十五年雨也

廿十日

曲亭馬琴誌



市川





三途川氷地獄

市山













市川桃太郎の
 身人の一りまき
 上は符のつま
 つまのつらうもえ
 とらうてあ
 こと



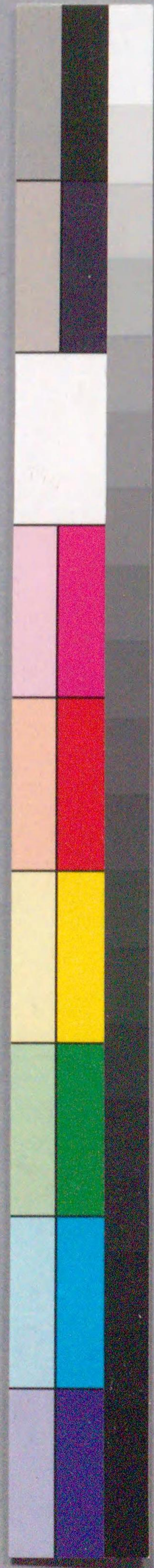
アアモウ
 あゆませせて
 ことひいので
 ことひいませ

至るは仲居同みまきあらの
 あんあうてくくらのぐく
 つりなれが先祖が市川の
 ひかりをのそり二枚め
 三枚め
 四枚め
 五枚め
 六枚め
 七枚め
 八枚め
 九枚め
 十枚め
 十一枚め
 十二枚め
 十三枚め
 十四枚め
 十五枚め
 十六枚め
 十七枚め
 十八枚め
 十九枚め
 二十枚め

この子のあつたを
 よろこぶ
 白あつたの
 ままの
 こころ

市川桃太郎
 あつたの
 ままの
 こころ





国立国会図書館 東莞名臯月落際：2巻 207-724



ガラス使用

